

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第20回総合企画専門委員会の概要について

1 開催概要

- (1) 日時 平成29年11月15日(水) 14:00~16:00
- (2) 会場 エスポワールいわて 3階特別ホール
- (3) 出席者 委員7名(2名欠席)
- (4) 審議事項等
 - ア 第3期復興実施計画の取組状況について
 - イ 次期総合計画の策定について
 - ウ 現地調査報告

2 審議概要

(1) 第3期復興実施計画の取組状況について

[谷藤委員]

- ・ 建設需要がなくなった段階で沿岸地域の男性の人口の減り方が女性並みになる可能性がある。復興プランを考える上でもポイントになるだろう。

[豊島委員]

- ・ 個別の事業が進んでいる中で、事業が完成したとき、どのような地域になっているのか考える段階に来ている。

[平山委員]

- ・ インフラの整備はあと一步という印象。少なくとも32年度までには事業が終わるように引き続き取り組みをお願いしたい。

[広田委員]

- ・ なりわいの再生に関して計画値と実績値が大きく乖離している事業が見られる。沿岸地域のなりわい再生は重要な課題であり、マッチング、人材育成などしっかり力を入れていただきたい。

[南委員]

- ・ 応急仮設住宅からの移行を支援するにあたり、生活保護世帯を始めとする低所得層に配慮する必要がある。

[若林委員]

- ・ 復興の終わり方が見え始めている段階。想定外の問題が出てきていないか今の段階で総点検を行う必要があると考えている。水産業では加工場が苦しいという現状がある。
- ・ 長期化が予想されるみなし仮設の居住者に対する支援のあり方について、しっかり検討していく必要がある。

[齋藤委員長]

- ・ いかにも整備しようと、7年にもわたる応急仮設住宅での生活が過酷なことに変わりはない。そのような認識を忘れずに事業にあたっていただきたい。

(2) 次期総合計画の策定について

[谷藤委員]

- ・ 人口減少が一番の問題。東京都と本県の沿岸部では起業の難易度も大きく違い、今後の仕事づくりをどうするかが課題となってくる。

[豊島委員]

- ・ 抽象的な「幸福」の意味するところを憲法上の原則等に戻って、しっかり詰めた上で次期総合計画の柱としていただきたい。
- ・ 広域的な連携の強化を図るにあたっては、県内自治体間の広域的な連携を推進する何らかの措置を講ずるべきである。

[平山委員]

- ・ 終わっていない事業も多く、被災地では不安な部分があると思う。次期総合計画までの繋ぎをしっかりと行っていく必要がある。
- ・ 次期総合計画の策定にあたっては当委員会の意見も反映できる仕組みとしてほしい。

[広田委員]

- ・ ハード事業の完了イコール復興の終わりでないことは強く認識していただきたい。
- ・ 早く復興施策から一般施策に切替え、一般施策の中で被災者支援等を行うべきである。
- ・ 被災地は課題解決の先進地に化ける可能性がある。
- ・ 三陸防災復興博（仮称）の開催に向けて、県民運動として盛り上げていてもらいたい。

[南委員]

- ・ 復興プランについては、比較的短いスパンでPDCAを回せるよう工夫してほしい。
- ・ 開いていく方向（三陸道、宮古・室蘭間フェリー等）と閉じていく方向（県内自治体間の連携等）をどう地域にプラスに持っていくかが重要な柱として挙げられる。
- ・ 幸福感は人それぞれに違いがある。多様性、立場の違いに応じた施策を展開してほしい。

[若林委員]

- ・ 三陸防災復興博（仮称）の開催にあたっては、各市町村が出す具材（復興祈念公園等）と連携しつつ、トータルでお膳立てするスキームが必要である。
- ・ 三陸防災復興博（仮称）の準備委員会に内陸市町村が入っていないのは残念だ。
- ・ 次期総合計画の策定にあたり、三陸全体をどうするかという大きな視点が欲しい。
- ・ 次期総合計画の策定過程に大学生、高校生が参画する仕組みを作っていただきたい。

[齋藤委員長]

- ・ 次期総合計画の下でも、復興について議論を交わせる当委員会のような場が必要と個人的には考える。